

広報誌100号記念 烏森住区住民会議に長年関わってこられた方からの一言

烏森住区だより100号を記念して

初代広報部長 細田 弘子

住区センターの建物ができる前から、広報部はできていました。建物ができ上がり、烏森だよりが発行され、私は一号から携わっておりまして。当時、広報部は六名で、年間三号を発行しておりました。

今でも一番記憶に残っておりますのは、夏休みを前にして、どんな記事を載せようかと皆で話し合い、家族で楽しめる行楽施設を紹介しようということになり、当時できたばかりの金沢八景島シーパラダイスへ皆で見学取材に行ったことです。その中で海に突き出たジェットコースターに乗り、驚きのスピードに恐ろしくなり、大声を出したこと、あの時のそんなこともありまして。毎回載せる記事を皆で話し合い、作る話題も大変なことでした。

一〇〇号、おめでとうございます。

烏森住区だより創刊は1980年7月。1977年から各町会への説明会などがあり、1980年4月に井出健三氏が世話人会代表に選出されました。井出氏が急逝された後、久保田慶一氏が世話人会代表代行を努め、1982年2月に烏森住区住民会議が設立され、初代会長となりました。(烏森住区20周年記念号より)その後、新津明会長、江寺成治会長へと続きます。

広報誌100号 おめでとうございます

烏森住区住民会議

第四代会長 上澤 邦夫

「たった一度しかない人生を、たった一人しかない自分を、本当に生かさなかつたら、人間生まれてきた甲斐がないじゃないか」これは山本有三の「路傍の石」の一節です。私の座右の銘です。仕事の依頼が来るのは、できると思われているからお願いされるのです。自分の力以上のことは望まず、できる範囲の中で事を成す。烏森住区では、青少年育成部長、総務部長、会長と十八年間に渡って経験させていただきました。

和田村キャンプの開設時から閉鎖されるまで、十五年間に渡り無欠席は私一人だったと思えます。後年に続く男女倉山登山、翌年の旧和田村キャンプ場への中山道突破は、私と小野沢さん、大崎さんと市川さんがルートを開拓しました。また年忘れお楽しみ会では、平原先生の娘さんの綾香さんがジュピターを歌ってくれたこともありまして。「上沢会長はイベントの日程と場所内容を決めたら、あとは全部私たち役員に任せてくれるのよ。そして後の責任は自分で負ってくれるのよ」と言われていました。

大橋さん、小松崎さん、増山さん、片柳さん、山口さん、澤さん、平澤さん、水口さん、自見さん、清さん、稲垣さん、細田さん、亀田さん、勝本さん、佐戸さん、高頭さん、浅野さん、仙田さん、磯田さん：書き切れませんが、感謝をこめて。

2001年8月 和田村キャンプ

